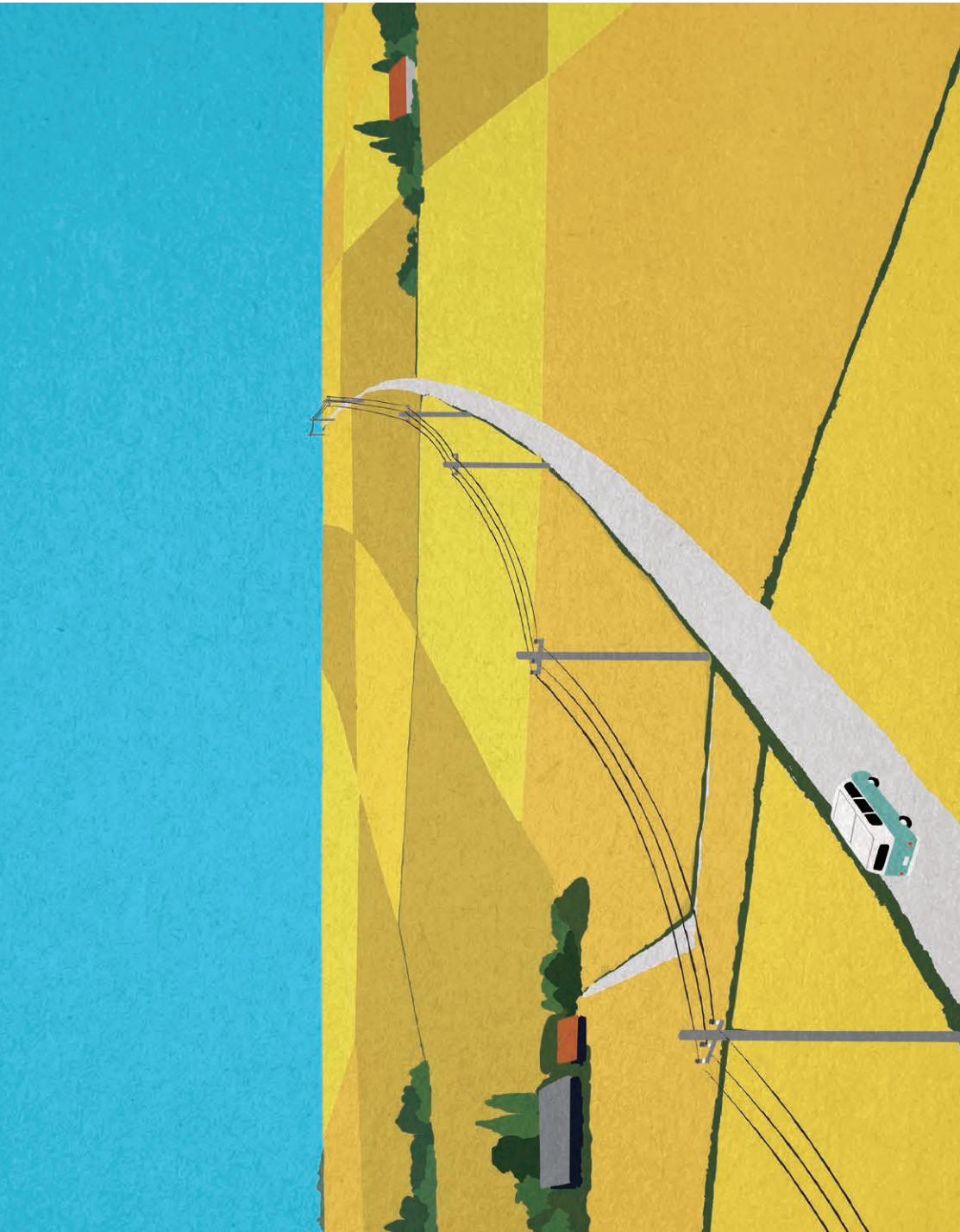
Llifestyle Guidebook

LONG

Chosei-mura is the only village in Chiba Prefecture.

TAKE FREE

千葉県長生村
ライフスタイルガイド



On The Long Road

長く、ていねいに、生きる場所

緑や金色に色を変え続ける田園。
どこまでもまっすぐにのびる道。
思わず手を広げたくなる大空。
意味もなく涙する真っ赤な夕日。

毎日変わることなく、そこにあり、
繰り返される自然の営み。

そんな風景のラストピースに
自分はなりたかったのだと気づく。

どこまでも続く道のように、まっすぐに
どこまでも広がる空のように、寛大に
いつまでも波を繰り返す海のように、年を重ね
長く、ていねいに、生きてゆく。

SUNSET SPECIAL MOVIE
AR LONG MOVIE

Interview With Chosei Vil's People

Tell Your Stories

暮らし方から見つける
自分らしい生き方

ヒマワリが季節を教え、波音はやさしい子守唄になる。
水平線から昇る朝日が生きるよろこびを与えてくれる。
そんなささやかなごほうびを大切にし、ていねいに時をためていく。
豊かさとは何か？　サステイナブルな暮らしとは？
この村に生きる人々の“今”に至る５つの物語から
きっと自分らしいの“生き方”のヒントが見つかるはず。

Interview with

平塚 一耀さん
亜由美さん

専業農家

宮城県出身の一耀さんは、運送業から農業へ転身。千葉県出身の亜由美さんは、クラシックバレエの先生。出産＆移住後の今でも、月に１度は元いたクラスでママたちにバレエをレッスンしている。

4カ所の畑をほぼひとりで管理する一耀さん。ひとりでも対応できるように、作付け時期や品目を変えながら農業計画を練る。ネギやサツマイモ、ナスなどを作っているが、自分の作りたい品目を作るのではなく、ここで必要とされる品目を作りたいと語る。

2歳になる息子の一（はじめ）くんは、畑も野菜も大好き。「野菜が採れたてで新鮮なことはもちろん、主人がていねいに真面目に作っているから安心安全は確実です。息子に何の不安もなく、たくさん食べさせられるのはうれしいですね」と亜由美さん。

物質的な欲求から離れて、耕人として生きる。

青々とまっすぐ天にのびるネギ畑。子どもが走り回るのを見守りながら、父と母は畑仕事に打ち込んでいる。郷愁を誘う農家のワンシーンだが、2020年の今、“移住＋新規就農”は憧れのライフスタイルのひとつになった。

2017年に長生村に新規就農者として移住してきた平塚夫妻。「結婚して１年くらいで子どもを授かりまして、同時に主人が農業で生きていくことを決め、身重のままバタバタとこの村に来ました。すべてが初めてのことだったので、思い切れたのかもしれませんね。」と亜由美さんは笑顔で振り返る。

サーフィンが楽しめて、通年農作業ができる場所。このふたつの希望を叶えてくれるのが、この村だった。「自分にはサラリーマンは向かないと思って。」と苦笑いの一耀さんだが、農業を選んだ理由はほかにある。

「東日本大震災をきっかけに、今の生活を変える必要があると強く感じました。何かが起こったときに、何もできないのが怖いと思ったんです。そこで生きていくために必要な農作物を作れる人間になろうと思いたち、千葉県内の農業法人で４年間お世話になりました。農場長まで任される立場になり、自分に農業は合っていると確信が持てたんです。でも移住してすぐには、売り先も未定だったんですけどね。」 まずは行動しないととばかりに、農業法人での農業キャリアを武器に4カ所の畑を借り、作付けを開始。畑仕事をしながら、飛び込み営業も行い、無事に売り先も見つけた。

「ずっと物質的な欲求に支配された生活でいいのか？変わらなくていいのか？と自問自答を繰り返していました。そんなときに農業と出会い、家族とこの村に移住して、長年の疑問が解消された気がします。」と笑顔の一耀さん。

10年前には予想もしていなかった“未来”に、いま生きている。そして、何がきっかけで人生が変わるかわからない、という真理も体感した。「農業はおもしろいです。季節を重ね、年月を重ね、経験や知識が自分に蓄積するのがわかるんです。農業を選んでよかった。」 土を耕す日々が、本当の豊かさとはなにかを教えてくれた。

秋苗たちが丈夫に冬を越せるように手入れをする宇井さん。その眼差しは真剣そのもの。長生村をはじめ、この周辺には都会から移住し、念願の庭付き一戸建てをもつ人が多く、ガーデンデザイナーとしては腕の見せどころ。この村に自身も住み、千葉のなかでも海に近い気候を体感するからこそ、庭造りのお客さまに助言できることがたくさんあるという。

Interview with

宇井 英喜 さん

ガーデンデザイナー

京都造形芸術大学ランドスケープ学科卒業。宅地建物取引士。財団法人 千葉県地域整備協会にて県営駐車場及び、県立公園の計画・管理業務に携わる。ウッディハマー（横浜一雄師）にて現場施工、現場監督として修行。

自分が見たい景色のなかで子どもを育み
人と人とのほどよい距離感のなかで暮らす

造園という仕事を通して、素晴らしい風景を生み出してきた宇井さん。昔から移住に関心があり、地方自治体主催の移住体験にも参加した経験があるという。移住先は長野や北海道をイメージしていたが、本気で移住するなら子どもが小学校に入る前にと意を決し、この村にやって来た。

「実は、10年限定と思って来たんです。でも気づけば、もう12年が経ちますね。」と微笑む。「この場所を見たときに既視感を覚えました。幼い頃に住んでいた風景に似て田んぼや自然が残り、こんな開けた自然のなかで子育てをしたいなと。小学校が１クラスしかないと聞いて、子どもも馴染むのにちょうどいいと思ったんです。」そんなお子さんのお気に入りは、通学路に咲く花々。「あの角がヒマワリからコスモスに変わってたよ！」という季節の便りは、お子さんが運んでくる。

10年と決めた移住期限を更新している理由は、地元だけの・移住者だけのという閉鎖的なコミュニティがなく、人と人が付かず離れずほどよい距離を保って暮らしている。その距離感がちょうどいいからと宇井さんは分析する。「ここと同じくらい自然豊かな場所は、ほかにもあるでしょう。でも、このほどよい距離感の人間関係がほかで探せるかというと、なかなか難しいかもしれませんね。」と12年間を振り返る。お子さんたちも大きくなり、親離れする時期も間もなくやってくる。

「私たち夫婦だけが別の場所に引っ越すことがあるとしても、この家は残そうと思っています。子どもたちにとっては、この村が故郷ですから。そして、家の前の田んぼに沈む大きな夕日は、私たち家族みんなのお気に入りなので。」

ビレッジガーデン

宇井さんが代表を務める造園・ガーデンデザイン会社。千葉・市原・外房・内房で庭の設計や施工、管理など各種造園業務を行っている。

☎ 0475-32-7150

village-garden.com

「最近は、1歳になる愛犬のハルと庭で遊びながら、妻と一緒に草取りをする、そんな何気ない時間に幸せを感じます。」と笑顔で語ってくれた宇井さん。ショッピングなどで予定が埋まっていた休日は、今では愛犬や奥様と大切な時間を過ごす日になった。そんな変化はこの村が気づかせてくれたことのひとつだとか。

静かに波と向き合いたい
そんなサーファーたちに愛される場所に暮らす

千葉県は、国内有数のサーフポイントを抱える、まさにサーファーの聖地。しっとりとした黒い砂肌をもつ一松海岸も、そのひとつ。サーフィン目的の移住は多く、週末だけ海のそばに家を借りる人もいるほど。サーフボードから見る朝日に誰もが感動する。

Interview with

坂口 礼恵 さん

サーフィン チーフインストラクター

市原市出身。スイミングスクールの先生から、サーフィンスクールのインストラクターに転身。自身も『BEACH』の元生徒。何歳になってもチャレンジし続けるエネルギー溢れる女性でありたいと語る。

Interview with

桒原 翔吾 さん

サーフィン インストラクター

富里市出身。高校卒業後サーフィンに熱中し、サーフブランドに勤めた経験も。現在は『BEACH』で働きながら、サーフィンを楽しむ毎日。自宅も海に近く、念願のサーファー生活を手に入れた。

海に入る前は生徒さんと一緒に入念にストレッチ。その後、海に向かって一礼し、レッスンがスタートする。海から上がれば、もちろん道具のケアも欠かさない。それはまるで武道を見ているような気持ちになる。サーフィンスクール『BEACH』が、長年愛される理由がわかった気がした。

変わらないこの場所で
静かに波と対峙する日々

「移住してから、一切テレビを見なくなりました(笑)。なんとなくテレビを見ていて時間が過ぎていく……なんてことがないのは、幸せなことだと思っています。たまに都内に出かけても、すぐに村に帰りたくなります。」と笑う坂口さんは、仕事がある日も休みの日も、サーフィン中心の生活を送っている。

隣町はオリンピック会場に選ばれるほど、サーフィンで有名な場所。なぜこの村を拠点に選んだのだろう。「ここはいい意味でいつも静かで、10年前に移住してきたときから何も変わりません。変わらぬ海があって、毎日美しい朝日と夕日に癒され、ずっと私を応援してくれる人たちがいます。考えたらいいことだらけですね。」

笑顔がとても印象的な坂口さん。でも、波に向かう瞬間、真剣な表情に変わる。「何度もトライして成功と失敗を繰り返す日々。これだからサーフィンは、やめられません。」波を見極め、心と体の声に耳を澄ます。サーフィンに惚れ込んだ坂口さんにとって、この村の静けさは最適な環境なのかもしれない。

家族とサーフィンとともに
ここから人生を歩いていく

「仕事も決めないまま、妻と子どもを連れて移住してきました。」と軽やかに話す桒原さん。きっかけは、もちろんサーフィン。「この場所に決めたのは、車で30分も走ればさまざまな県内有数のサーフスポットに行けるからです。」というだけあり、ほぼ毎日海に入る生活をしている。2019年2月に移住してきたばかりの桒原さん一家。サーフィンをしない奥様にも移住後の楽しみができたとか。「家族３人で毎晩波音に包まれて眠れるのがうれしいそうで、以前よりさらに笑顔が増えた気がします。」と語る桒原さんは、近々２人目のお子さんが生まれるそう。波と家族と夢だけがここにある。雑念に邪魔されることなく、あとは前に進むだけ。

サーフィンスクール
BEACH
８年連続受講生徒数千葉県No.1を誇るサーフィンスクール。あらゆる年齢・能力の人が効率よく上達できる、ビデオ分析や論理的なアプローチのレッスンで選ばれ続けている。
www.b132.net
☎ 0475-32-7314

Interview with

相原 隆司さん
智子さん

古民家カフェ 経営

東京で７年半のカフェ経営ののち、2017年に長生村に移住。野菜薬膳カフェ『fato.』を開店。長生村で農業もはじめ、自家栽培した新鮮野菜がメニューを飾る。奥様は漢方養生士・薬膳マイスターでもある。

広い座敷は、もともと襖で仕切られていた。木製の襖が気に入り、「足をつけてテーブルにしちゃいました」と智子さん。襖再利用のロングテーブルでは、相席は当たり前。いつの間にかお客さん同士がつながって、気づいたらサーファー仲間になっていた！なんてうれしいハプニングもしばしば。

この村の人や自然とめぐり逢って
家族がぎゅっとひとつになれた気がする

「この村に来て、人生ではじめて流れ星を見たんですよ。」と語る相原さん一家の後ろには、今にも寝そべりたくなる座敷が広がる。東京・練馬区でカフェを経営していた相原さん夫妻は、友人の誘いで長生村にある古民家を改装し、カフェを経営することに。夫婦ともにサーフィンが趣味だったこともあり、ふたつ返事で息子の希威(のい)くんを連れての移住を決めた。

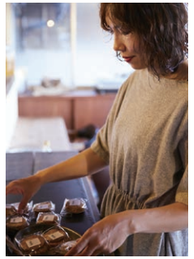
「この古民家は築100年と聞きましたが、日当たりも風通しもよく快適そのもの。昔の職人はこの土地を理解して建物を建てたんだな、と感心します。」2017年のオープン以来、東京時代の常連さんが追いかけてきたり、東京のカフェ仲間たちとコラボイベントを開催したり、長生村に新しい風を吹き込んでいる。

「ただいまー！ 遊んでくるねー」と昭和の子どもさながら、ランドセルを置いてすぐに出かけてしまった希威くん。「転校することになったのでとても心配しましたけど、最初に大家さんと仲良くなったり、学校の友だちを放課後に連れて帰ってきました。私たち夫婦とこの村の距離を縮めてくれたのは、間違いなく息子ですね。」と微笑む智子さん。「それほど不安はありませんでしたが、東京にいた頃より、家族がぎゅっと近づいてひとつになれた気がしています。東京では逆風が吹いても意地でも前に進まなきゃ！って感じでしたけど、ここに来たら、風の吹くまま無理せず生きるのもいいな、それが人生だなって思えるようになりました。」と隆司さん。店名の「fato.」の意味は“めぐり逢い”。村と家族がめぐり逢って、どんな未来を描くのだろう。

fato.

相原さん夫妻が営む古民家カフェ。コンセプトは「野菜薬膳」。目にも美しく、体にもやさしいヘルシーメニューが話題。

www.facebook.com/fatocafe



自家製パンやマラサダの担当は、夫の隆司さん。「毎朝早起きしてパンを仕込んで海へ。サーフボードから見る朝日がきれいでついつい長居。パンを膨らませ過ぎちゃったことも」と笑う。母として安全で体にやさしいメニュー作りを心がける智子さん自慢のクッキーは、村のママたちにも人気。趣ある古民家は撮影用のスタジオとしても貸し出されている。

開放的なウッドデッキが気持ち良いオープンガーデンのあるオフィスを訪れると愛犬のムサシが出迎えてくれた。ご近所さんたちも移住組＆愛犬家だとか。「来てみて驚いたのが夕日の美しさ。移住者はみんな感動してますね」という武田さんの自宅前からも大きな夕日が毎日拝める。冬には富士山と筑波山が両方見える日もあり、日々自然に感動しながら暮らしている。

Interview with

武田 新 さん

田舎暮らし移住仲介業

北海道出身。若い頃から国内を移住し続け、2004年に長生村に移住し、不動産会社「田舎暮らし・千葉房総ねっと株式会社」を経営。このほか、NPO法人 日本民家再生協会や千葉県自然保護連合などの活動も行う。

捨てられている猫を保護している武田さんの事務所と自宅には７匹もの猫たちが心地好さそうに過ごしている。
個性が詰まった本棚には、音楽と歴史民俗学などの本が並んでいる。千葉に点在していたさまざまな文化と歴史の名残を見つけに、週末は歴史探訪も楽しむ。
音楽が好きでライブハウスなどで自作の楽曲を披露することも。「村の風景を歌にして、村おこしができたらいいですね。」

ローカルと移住者の好バランスは、この風土がもたらす恵み。

「私自身が移住者であり、今は移住促進を仕事にしていますからね。」と語る武田さんは、房総エリアの古民家や菜園付き物件などの不動産情報を発信することで移住者の田舎暮らしを応援している。長野や沖縄、鹿児島と定住先を求めて若い頃から移住を繰り返し、外房の海に誘われこの村に辿り着いた。「玄関の前にそっと野菜が置いてあるっていう話があるでしょう？ここではそれが本当に起こるんですよ(笑)。農家さんが多く住んでいて、みんなやさしくていい人たちなんです。」

最高の第一印象でスタートした長生村暮らしは、今年16年目を迎える。移住の動向を長年見てきた武田さんは、今の移住ブームをどう感じているのだろう。「10年前から潮目が変わりましたね。昔はリタイア後のシニア夫婦や本格的に農業をしたい人が多かったけど、今は圧倒的に子育て世代が多いですね。この村もついに、移住人口が地元人口を上回るくらい移住者が増えています。」武田さんに物件の相談に来るお客さんも、古民家カフェやパン工房、雑貨店などを起業したい若い人が多いとか。「この村に移住してくる人は、目的意識を持った人が多い印象ですね。だからこそ、人間関係も仕事もうまくいき、しっかりと根付いてくれるんだと思います。」 移住して終わりではない。移住先でどう生きるか？が大切だと武田さんは教えてくれた。

「これは私の仮説なのですが、この辺りは幕府直轄の天領地だったので、昔からみんな仲良く暮らしていたんだろうと思います。閉鎖的な強い権力に縛られることなく、美しい海と豊かな土壌に触れて生きていたから、みんなウェルカムな感じで明るいんです。」その土地が持つ歴史と人々が営んできた文化が今現在の人々の暮らしや生き方に繋がっているということなのかもしれない。

田舎暮らし！
千葉房総ねっと

武田さん夫婦が経営する不動産会社。房総のこだわり物件が豊富に揃う。移住者・田舎暮らし実践者の目線でアドバイス。

☎ 0475-32-4477

bousou.net

“村暮らし” 移住のポイント

千葉県で唯一の村「長生村」へ移住を検討している人はチェックしよう!

移住先でやりたいことは何だろう？

ネットの普及や働き方改革の影響もあり地方移住者が増えるなか、挑戦する人が増えただけ失敗する人もいるのは事実。成功の秘訣は、いかに目的意識をもって移住するか。地方でただのんびり暮らしたい人より「家族と一緒に農業で生きていく」「地産地消のカフェを開く」など具体的な目的があると土地に馴染みやすく成功する可能性も高まる。

現地に何度も訪れてみよう

気になる移住先や物件を見つけたら、可能な限り何度も足を運んでみよう。自分と家族では受ける印象が異なったり、平日と週末でも土地がもつ雰囲気は違うはず。特に物件の場合は、晴天・雨天・昼・夜・平日・休日と６回は見ておこう。

予想以上に物件の動きは速い

地方だから大丈夫だろうと悠長に構えていると、気になった物件が早々に他の人に抑えられてしまうことも…。興味のある物件を見つけたら、早めに管理会社に連絡のうえ、まずは内見してみよう。早い場合は、２～３日で契約が成立する物件もあるので物件選びは、慎重かつ大胆に決断したい。

地方移住物件の探し方は都会とは違う？

地方移住で重要になるのが物件探し。住宅は暮らしの拠点であり、移住後の夢や目的を実現できるかどうかを左右するといっても過言ではない。
そんな移住先での物件探しで最も重要なのが、土地の境界線。都市部では物件が密集していることもあり、土地の境界線には塀などがあり誰が見ても明白なことが多い。でも地方の場合は、「あの木からこの木まで」などかなりアバウトでその土地に暮らす人々のなかで、代々口承で伝えられるケースが多々ある。土地購入の際には、この境界線問題がトラブルの原因になることが多いので十分に注意したい。

地方移住物件によくある『農地付き物件』のヒミツ

移住後は憧れの農家暮らしがしたい人も多いはず。でも、農地付き物件は農家資格を保有していないと借りることができない。農家資格がない人が農地付き物件を借りる場合は、仮登録で一時的に権利を保全し、契約を進めることが可能。ただし、完全な権利ではないので農地付き物件は、新規就農者または農業従事者の移住向け物件といえる。

移住までのステップ

- STEP 1 移住の目的をはっきりとさせる
- STEP 2 自分に合った移住スタイルを考える
- STEP 3 家族やパートナーとも話合う
- STEP 4 移住先の候補を考え情報を集める
- STEP 5 移住先での生活を体験してみる
- STEP 6 移住先での住まいを探す
- STEP 7 生活の基盤となる仕事を決める
- STEP 8 移住を実行する

助成・制度紹介

長生村独自の助成・支援制度で生活をサポートします

結婚新生活支援金

結婚に伴う住宅購入や賃貸、引越し費用などに対し、新生活支援として補助金を交付します。補助を受けるには、年齢や所得による要件を満たす必要があります。

特定不妊治療費助成

不妊に悩むご夫婦への支援として、不妊治療に要する費用の一部を助成します。県の助成と併せて受けられ、特定不妊治療（対外受精・顕微授精）、男性不妊治療、男性不妊検査の助成が男女共に受けられます。

妊婦一般健康診査費用助成

妊婦健康診査受診票を使用しても自己負担が生じた場合、自己負担に対して、さらに一部を助成します。健診日に村に在住している方を対象に、出産から2年以内の申請が可能です。

おめでとう赤ちゃんプレゼント事業

生まれたお子さまの健やかな成長を願い、保護者の出産に祝意を表して、こども商品券を支給します。生まれたお子さまと共に村で暮らす保護者のみなさまを対象に、新生児訪問時に商品券をお渡しします。

子どもの予防接種助成

インフルエンザ、おたふくかぜといった国の助成がない予防接種においても費用の一部を助成します。
（お子さまの各種予防接種は、受けられる年齢が定められていますので予めご確認ください。）

高校生等医療費助成

子育て支援の一環として中学生までの医療費助成に加えて、長生村在住の15～18歳の高校生等まで対象を拡大して助成します。
（保険適用外の医療費や夜間など診察時間外の医療費ほか、助成対象とならない医療費がありますので予めご確認ください。）

奨学金等貸付制度

村における将来の人材を育成する目的で、経済的理由により高校や大学進学が困難な生徒に対し、奨学金等の貸付を実施します。
（奨学金・育英修学金は各10人となり、受付期間も2月1日～3月20日までとなります。）

家庭用太陽光発電システム設置補助

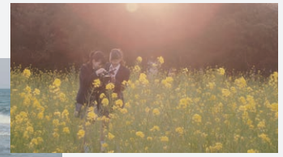
家庭における地球温暖化の防止及び再生エネルギーの導入促進を図るため、住宅用太陽光発電システムを設置する場合、経費の一部を補助します。

長生村役場 お問合わせ窓口	TEL: 0475-32-2111（代表） https://www.vill.chosei.chiba.jp/	＊記載の情報は2019年12月現在のものです。 ＊上記の助成や制度を受けるには、各種条件を満たす必要があります。詳しくは長生村HPもしくは長生村役場でご確認ください。

長生村公式プロモーション映画

長生ノスタルジア

仕事を辞め、父が一人で暮らす長生村に帰ってきたアカリ（谷口蘭）。
春、夏、秋、冬と巡る季節のなかで、
ふと忘れかけていた昔の記憶が蘇ってくる。
親友と行った夏祭り、父との思い出の海。
高校時代の思い出と大人になって改めて気づいた村への思いを胸に、
長生村での新しい暮らしへと歩みを進める――。

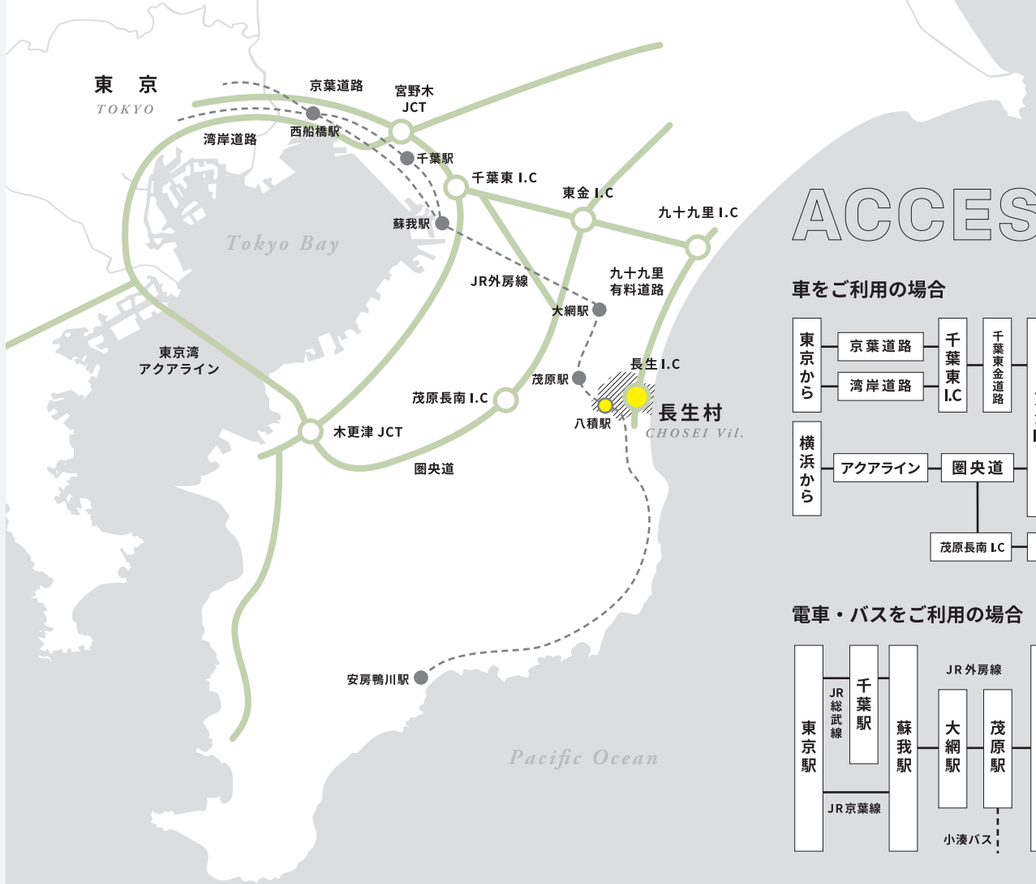


約１年間をかけてロケ撮影を敢行し、
四季折々の風景や暮らしを鮮やかに描きだした、
長生村の穏やかな日常や暮らしを感じていただける
映画作品です。

YouTubeにて公開中
https://youtu.be/G9ALSUVfAoo

谷口蘭　新井敬太　溝口奈菜　手島実優　古川真司　藤島なな

プロデューサー：伊藤尚平　監督：安田瑛己　脚本・助監督：今野恭成　撮影：平野礼　照明：稲葉俊充　録音：小牧将人
ヘアメイク：高橋亮　スタイリスト：小宮山芽以　空撮：菅野圭亮　車輌：比嘉賢多　制作：安藤興作　嶋崎亜美　松岡大樹



ACCESS

車をご利用の場合

東京から
- 京葉道路
- 湾岸道路

→ 千葉東I.C → 千葉東金道路 → 東金I.C → 東金九十九里有料道路 → 九十九里有料道路 → 長生I.C

横浜から
- アクアライン
- 圏央道

→ 東金I.C

茂原長南 I.C　国道409号線　県道84号線

電車・バスをご利用の場合

東京駅
- JR総武線 → 千葉駅
- JR京葉線 → 蘇我駅

蘇我駅 → JR外房線 → 大網駅 → 茂原駅 → 八積駅

小湊バス

東京駅から総武線または京葉線、もしくは外房線で茂原駅下車。小湊バス白子車庫行に乗車し約20分で「一松海岸」。

貸自転車のご利用はJR外房線 八積駅併設の商工会へ。
長生村商工会
☎ 0475-32-0152

AR LONG MOVIE

本冊子のページ内にある左のマーカーをスマホで読み取るとAR動画を見られます

左のQRコードから「COCOAR2」アプリをインストールし、起動後マーカーにかざしてスキャンしてください

Special Web Site

LONG and LIVE

https://longandlive.com

千葉県長生村 観光ガイドブック

TAKE FREE

Travel Guidebook

LIVE

長生村

発行・編集　長生村
千葉県長生郡長生村本郷 1-77
TEL: 0475-32-2111（代表）

2020 年 1 月発行

Creative Producer：Kiyoshi Arie（PONY CANYON INC.）
Creative Direction & Design：Masashi Sato（NPC Inc.）
Photo：Hiroshi Ishida［Except for some photos］
Text：Yuko Yamada
Illustration：Yumi Tochihara（NPC Inc.）